

平成 28 年度

南アルプス市教育委員会  
点検及び評価報告書

【平成 27 年度事務事業分】

平成 28 年 8 月

南アルプス市教育委員会

# 目次

I	点検及び評価について	
1	趣旨	1
2	点検及び評価の対象とした事務	1
3	評価の点数表	1
II	点検及び評価のまとめ	
1	教育委員会の活動に対する点検及び評価シート	2
2	教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価シート	2
III	教育委員会の活動についての点検及び評価	
1	教育委員会の活動状況	6
2	教育委員会の活動に対する点検及び評価	11
IV	教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価	
1	教育委員会事務局の事務事業について	13
2	第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋）	14
3	教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について	15

# I 点検及び評価について

## 1 趣 旨

南アルプス市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、南アルプス市議会に提出するとともに、市民の皆様に公表しております。

これは、教育委員会の責任体制を明確化するため、平成 19 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正において義務付けられたものであります。

南アルプス市教育委員会では、自らが点検及び評価を行ったこの結果を、今後の事務の執行に反映し、効果的な教育行政を推進して参ります。

## 2 点検及び評価の対象とした事務

### (1) 教育委員会の活動に関する点検及び評価

委員自らが教育委員会活動の内容を振り返り、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

### (2) 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

南アルプス市では第 2 次南アルプス市総合計画の進行管理を行なうための手法として、行政評価システムを取り入れ、すべての事務事業に対して「事務事業マネジメントシート」を作成し、内部評価を実施しております。

点検及び評価に関しては、この行政評価システムを活用し、南アルプス市教育委員会に属する事務事業の執行状況等について振り返り、取りまとめを行いました。

ただし、事業選択や予算規模に自由裁量がない「国・県の制度による義務的事業」や「義務化されている協議会等の負担金に係る事業」については、対象外としております。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| ①事務事業総数：255事業                     |
| ②点検及び評価した事務事業：179事業               |
| ③点検及び評価から除いた事務事業：76事業             |
| ※義務的事業及び義務化されている協議会等の負担金に係る事業を除く。 |

## 3 評価の点数表

評価の点数は、「5」から「1」までの5段階評価で行いました。

5	目的をはるかに超え達成、他への波及効果などが見られる。
4	目的以上に達成
3	目的どおり達成
2	目的までは達成できなかった。
1	目的までまったく達成できなかった。

## II 点検及び評価のまとめ

### 1 教育委員会の活動に対する点検及び評価シート (11 ページ) . . . . . 評点平均 : 3.3

教育委員会定例会を 12 回、臨時会を 1 回開催しました。会議では、規則等の制定改廃、重要案件の協議、教育委員会所管の各種委員会等の委員の選任を行いました。

教育委員会事務局業務では、教育委員会定例会や総合教育会議等で効率的な会議運営を図るため、出席者に対し、議案や資料を事前配布しました。

研修会等への参加や学校訪問では、教育行政課題への対応、学校現場の現状と課題の把握ができました。

### 2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価シート

#### (1) 基本政策 : 1. 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

##### 施策名 : 02. 市民参加のまちづくり (15 ページ) . . . . . 評点平均 : 3.0

「青少年対策事業」の国内交流事業では、夏休みの期間を利用し、姉妹都市と本市の児童生徒による交流を行いました。

北海道津別町とは、本市小学6年生による訪問団派遣を行い津別町小学生との交流を行いました。東京都小笠原村とは、中学生訪問団受け入れによる芦安中学校生徒との交流を行いました。

石川県穴水町とは、小学生訪問団受け入れによる、若草南小学校児童との交流を行いました。訪問団の派遣と受け入れいずれにおいても、子どもたちとの交流において、相手先の地域を知ること、改めてふるさとの良さを発見できたとともに、お互いの地域を認め合い、子ども同士の友情も育まれたと感じています。

#### (2) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

##### 施策名 : 19. 生涯学習の振興 (15 ページ) . . . . . 評点平均 : 3.2

「公民館運営」では、公民館の館長、主事が中心となり、地域の実情にあった公民館活動を実施しました。

また、「生涯学習推進事業」では、数多くの学習機会の提供や、自主的な学習の支援に努めました。今後も、文化財課、市立図書館、市立美術館と連携した講座や講演会を開催していきたいと考えています。

「スポーツ推進委員運営事業」、「南アルプス市体育協会支援事業」では、スポーツ推進委員及び市体育協会への支援により各種のスポーツ教室と大会が開催され、多くの市民が参加しました。今後も生涯を通じて、スポーツを楽しむ市民行動の定着に向け支援を行っていきます。

「各種社会教育施設」では、直営施設及び指定管理者制度導入施設ともに、効率的な管理運営に

努めました。

「市立図書館」では、「ブックスタート」、「おはなし会」など、子どもたちが小さいときから読書に親しみ、読書習慣を身につけられるような事業を展開しました。

また、一般向けには、「シニア講座」、「教養講座」、「ビジネス支援講座」などを開催し、市民の幅広いニーズを支援しました。11月には八田ふれあい図書館の閉架書庫の改修を行い、資料収容能力の拡充を図るとともに、図書館資料の効率的な整理・保存に努めました。

「市立美術館」では、市民に親しまれ、芸術文化の楽しみを発見できる美術館を目指して、各種事業を展開しました。年4回の常設展と10月から企画展の「大正ロマン昭和モダン展 竹久夢二・高島華宵とその時代」を開催し、4,600人余りの来館者がありました。

また、大型連休などには、小中学生を対象とした「ワークショップ」を積極的に実施し、芸術文化に触れる機会を増やし、「絵画コンクール」には2,000点余の応募があるなど、教育普及活動に努めました。成人者向けには「木版画実技講座」などを実施し、市民の生涯学習の場として提供し、文化意識の向上や美術に対する理解と親しみを深める活動を展開しました。

(3) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20. 歴史・伝統文化の振興 (21 ページ) . . . . . **評点平均 : 3.2**

本施策では、市民共有の財産である、市内の歴史的・文化的資源の適切な保護と、これを市民に活用してもらうための教育普及事業を両輪として事業展開を行っています。

「地域の伝統芸能事業」では、社会教育団体に認定された地域の伝統文化活動への支援により伝統芸能等の伝承・保存、本市を発祥とする、小笠原流礼法の普及推進に寄与しました。

「文化財の保護事業」については、所有者・管理者への適切な助言や補助事業の実施などに努め、一方で「教育普及事業」を実施し、実施数221回、延べ参加者数は11,814人を数えました。内訳は小中学校等に出向いた回数が138回、教職員向けの研修が8回、その他一般向けの講座等が75回でした。合併以来増加を続けていた実施数は、今年初めて前年を下回りましたが、学校現場や地域からのニーズは、なお旺盛で全国的にも高水準を維持しているといえます。

「埋蔵文化財事業」については、地域における公共事業や民間開発と調和した遺跡の保護を図るために、適時適切な試掘確認調査等の実施に努め、「保存活用整備事業」による親しみやすいイベント等の実施やAR(拡張現実)といった先進的な手法に取り組み、その価値の周知に努めました。

また、市内出土の重要文化財、鋳物師屋遺跡出土の「円錐形土偶」のキャラクター「子宝の女神 ラヴィ」を多方面に展開し、市の歴史をPRしました。

「ふるさと文化伝承館」の入館者数は、リニューアルオープン以来、堅調な増加傾向にあり、これを維持するため、地域の歴史的・文化的資源の保管機能を維持しながら、毎年新たな企画に取り組んでいます。

「安藤家住宅事業」では、重要文化財としての「安藤家住宅」の価値を損なわないよう、適切に管理しながら、地域文化発信の拠点として活用を図っています。

また、隣接する南湖第一保育所跡地を駐車場として整備し、来館者の利便性を図る中で、市民ニーズを探り、従来とは異なる新たなイベントを企画したこともあり、下降傾向の来館者数は3年ぶりに5,000人台を回復することができました。

「フィールドミュージアム推進事業」は、事業名を「ふるさと〇〇（まるまる）博物館」とし、市民とともに基本方針を策定するためのワークショップ等を開催、H28年度には基本方針を決定し、H29年度の本格実施に向け準備を進めているところです。

(4) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 21. 学校教育の充実 (23 ページ) . . . . . 

評点平均 : 3.1
------------

「学校給食費支援事業」では、小中学校へ3人以上の子どもが通っている保護者222人に対し助成を行いました。

「各学校給食」では、アレルギーマニュアルを策定し、児童・生徒のアレルギー食への対応をマニュアルに基づき実施しました。

給食費の未納については、教育的な配慮により督促をしながら、給食費の徴収を行いました。

また、児童手当を受けていながら給食費を滞納している保護者からは同意を得た上で、児童手当からの徴収を進めております。

「育英奨学会事業」では、適正な事務の執行に努め、目的に合致した奨学生の選考を行いました。

「就学援助事業」においては、小中学校に通う経済的に、恵まれない児童・生徒への適切な支援を行っており、640人に対して支援を行いました。

「市単講師派遣事業」では、34人の市単講師を小中学校へ配置し、多人数学級対応と複式学級の解消及び特別支援教育推進、基礎学力の向上、一人ひとりの特性に応じたきめ細かな指導等への対応を図りました。特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあることから、今後も教育支援センターを含めた、体制の整備充実を図って行きます。「教育支援センター事業」では、学校へ登校することが困難な児童生徒が通う適応指導教室を設置し、家庭や学校と連絡を取りながら学習支援、教育相談を行い、学校復帰を目指しました。

「外国語指導講師配置事業」では、小学校の「外国語活動の時間」における活用を含め、小中学校に9人のALTを配置し、「聞く・話す」ことを中心に指導を行い、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることや、生の英語に触れる中で他国の文化や外国語(英語)に親しみをもたせ、国際的な理解を深めることができたと考えます。また、小学校外国語活動研修会を実施し、小学校教職員の指導内容の充実を図ると共に、ALT指導研修もを行いALTの指導内容向上も図ることができました。

「市指定研究事業」では、四つの指定校研究事業に取り組みました。一つ目は「学びの質を高め

る授業づくり推進事業」です。2年目、2校の指定校（若草中、白根百田小）1年目、2校（楡形中、南湖小）を定め、児童・生徒が互いの考えや表現を聴き合い学び合う授業作りについて、研究を行いました。二つ目は「南アルプス自然体験推進事業」です。ユネスコエコパークに認定されている芦安小・中学校を指定し、南アルプスの自然を舞台とした各種の体験活動により、人間性やふるさとを愛する心を育む取り組みを行いました。三つ目は「いじめ・不登校未然防止推進事業」です。Q-Uテストや心理プログラムを実施し、支援を必要とする児童・生徒への早期対応を行いました。いじめ、不登校件数も減少しました。最後は「授業改善プラン実践事業」です。諸調査を通して実態を把握し、外部講師を招いた校内研究会で課題解決に向けての手立てを探りました。また、H30年度より小学校で試行される、高学年への英語科、中学年への外国語活動に対応するために、県より英語強化地域拠点事業（白根飯野小、白根東小、白根巨摩中、白根高校）の指定を受け、調査研究に取り組みました。

「教育の環境づくり費」では、地域の素材「小笠原流礼法」を小中学校の授業に取り入れ、心の教育の充実を図りました。また、「スクールガードリーダー事業」や地域ボランティアを活用した「学校応援団育成事業」に取り組み、児童・生徒の安全確保や学校教育活動全体の充実を図りました。「姉妹都市交流プロジェクト推進事業」では、国際化が進む中、話せる英語を身につける必要性から、小学生対象の英語体験プログラム「イングリッシュキャンプ」を実施しました。参加者は、昨年度より20人ほど増加しました。

(5) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22. 青少年の健全育成 (29 ページ) . . . . . 

評点平均 : 3.3
------------

「青少年対策事業」では、青少年育成南アルプス市民会議への支援、各種子どもまつりへの支援、子どもクラブへの支援を行い、心身ともに健やかな次代を担う青少年の健全育成を図りました。また、「成人式挙行事業」においては、桃源文化会館に698人の新成人を招き、成人の門出を祝いました。

地域の子どものリーダーとして、活躍できる子どもを育成する目的で開催している「ジュニアリーダー養成事業」においては、中学1、2年生を対象に月1回のリーダー研修を開催しました。

夏休みには、研修を受講したジュニアリーダーに新たなジュニアリーダー候補として、小学6年生を加え宿泊研修を実施し、前年度を15%上回る60人の参加者がありました。

### III 教育委員会の活動についての点検及び評価

#### 1 教育委員会の活動状況

教育委員会は、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。

平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により現在、教育委員会の構成は教育長と4人の委員で構成しています。

##### (1) 教育委員会の定例会議・臨時会

教育委員会は、定例会を原則、毎月開催しており、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し決定しております。

また、必要があるとき、随時、臨時会も開催しております。

○開催状況・・・定例会 12回、臨時会 1回

開催月日 (区分)	案件 区分	件名
4月9日 (定例会)	協議 事項	① 南アルプス市就学援助費支給要綱の一部改正について ② 南アルプス市社会教育委員の委嘱について ③ 南アルプス市公民館運営審議会委員の委嘱について ④ 南アルプス市中央公民館長、地区分館長及び主事の任命について ⑤ 南アルプス市図書館協議会委員の任命について ⑥ 南アルプス市指定文化財の指定解除について ⑦ 南アルプス市指定文化財の現状変更について ⑧ 議案第18号の撤回について
	その他	① 南アルプス市教育委員会年間（前期）及び4・5月行事予定について ② 緊急連絡網について ③ 指定校変更願の報告について ④ 小林愛則育英奨学金の選考について
5月12日 (定例会)	協議 事項	① 南アルプス市社会教育委員の委嘱について ② 南アルプス市公民館運営審議会委員の委嘱について ③ 南アルプス市中央公民館長及び主事の任命について ④ 南アルプス市文化財保護審議会委員の委嘱について ⑤ 南アルプス市子どもの読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について ⑥ 南アルプス市美術館協議会委員の任命について ⑦ 南アルプス市奨学金貸与奨学生の決定について
	その他	① 南アルプス市教育委員会5・6月行事予定について ② 指定校変更願の報告について ③ 市教委学校訪問について
5月29日 (臨時会)	協議 事項	① 南アルプス市教育長職務代理者の指名について ② 南アルプス市教育委員会委員のその他の役職について



6月8日 (定例会)	協議 事項	① 南アルプス市中央公民館長の任命について ② 南アルプス市総合教育会議運営要綱の制定について
	その他	① 南アルプス市教育委員会6・7月行事予定について ② 教育委員会の点検・評価報告書作成について ③ 就学援助費について
7月9日 (定例会)	協議 事項	① 南アルプス市社会教育団体の認定について ② 安藤家住宅運営委員会委員の委嘱について
	その他	① 南アルプス市教育委員会7・8月行事予定について ② 指定校変更願の報告について
8月4日 (定例会)	協議 事項	① 平成28年度使用中学校教科用図書の採択について
	その他	① 南アルプス市教育委員会8・9月行事予定について ② 教育委員会の点検・評価報告書について ③ 就学援助費の認定状況について ④ 指定校変更願の報告について ⑤ 生涯学習推進プランについて
9月8日 (定例会)	その他	① 南アルプス市教育委員会9・10月行事予定について ② 教育委員会の点検・評価報告書について ③ 指定校変更願の報告について
10月8日 (定例会)	協議 事項	① 南アルプス市社会教育団体の認定について
	その他	① 南アルプス市教育委員会年間(後期)及び10・11月行事予定について ② 指定校変更願について ③ 全国学力学習状況調査のまとめについて
11月6日 (定例会)	協議 事項	① 区域外就学の許可について
	その他	① 平成27年10月28日付人事異動について ② 南アルプス市教育委員会11・12月行事予定について ③ 指定校変更願について
12月3日 (定例会)	協議 事項	① 区域外就学の許可について ② 南アルプス市教育委員会名義後援及び教育長賞に関する要綱の制定について ③ 公の施設の指定管理者の指定について (甲西市民総合グラウンド・甲西体育センター・白根B&G海洋センター) ④ 南アルプス市立美術館条例の一部改正について ⑤ 南アルプス市立美術館条例施行規則の一部改正について
	その他	① 南アルプス市教育委員会12・1月行事予定について ② 南アルプス市教育大綱について ③ 指定校変更願について

1月14日 (定例会)	協議事項	① 学校用地の用途廃止について
	その他	① 南アルプス市教育委員会1・2月行事予定について ② 指定学校変更の許可状況について
2月5日 (定例会)	協議事項	① 南アルプス市教育委員会公印規則の一部改正について ② 南アルプス市教育委員会の所管に係る個人番号及び特定個人情報に関する取扱規程の制定について ③ 教育財産(学校用地)の用途廃止について ④ 教育財産(教育施設)の用地廃止について ⑤ 南アルプス市コミュニティー館条例の制定について ⑥ 南アルプス市働く婦人の家条例の制定について ⑦ 南アルプス市農村環境改善センター条例の制定について ⑧ 南アルプス市史跡御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)保存整備委員会の委員の委嘱について
	その他	① 南アルプス市教育委員会2・3月行事予定について ② 指定学校変更の許可状況について
3月17日 (定例会)	協議事項	① 職務に専念する義務の特例に関する規則の一部改正について ② 南アルプス市教育委員会事務局組織規則の一部改正について ③ 南アルプス市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の施行に伴う関係訓令の整理に関する訓令の制定について ④ 南アルプス市教育支援センター設置要綱の一部改正について ⑤ 教育財産(教育施設)の用地取得について ⑥ 南アルプス市コミュニティー館条例施行規則の制定について ⑦ 南アルプス市働く婦人の家条例施行規則の制定について ⑧ 南アルプス市楡形農村環境改善センター管理規則の制定について ⑨ 南アルプス市甲西農村環境改善センター管理規則の一部改正について ⑩ 南アルプス市高度農業情報センター条例施行規則の一部改正について ⑪ 南アルプス市生涯学習センター条例施行規則の一部改正について ⑫ 一般財団法人南アルプス市桃源文化振興協会補助金交付要綱の制定について ⑬ 南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について ⑭ 南アルプス市美術館協議会委員の任命について
	その他	① 南アルプス市教育委員会3・4月行事予定について ② 指定学校変更の許可状況について

## (2) 総合教育会議

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、平成27年6月より開催しております。会議については市長が召集し、市長、教育長、教育委員の構成により、市長と教育委員会との対等な執行機関同士の協議・調整を行っています。

○開催状況・・・年5回

開催月日	案件区分	件名
6月26日	協議事項	① 南アルプス市総合教育会議運営要綱について ② 大綱作成の基本方針について
8月31日	協議事項	① 南アルプス市教育大綱（素案）について
10月30日	協議事項	① 南アルプス市教育大綱（素案）の修正について
11月10日	協議事項	① 南アルプス市教育大綱（案）について
2月25日	協議事項	① 子どもの貧困対策について

## (3) 学校訪問

教育委員会では例年、5月～6月にかけて市立小中学校（22校）を訪問し、子どもの様子や教員の指導方法など、細やかに見て回っています。視察終了後は、学校側と意見交換を行い、課題があれば改善するよう助言などを行っています。

## (4) 研修会等への参加

教育委員会では、各種の研修会、総会及び大会等に積極的に参加し、教育行政に関する情報収集や各市町委員との意見交換等を行い、各自の資質向上に努めています。

### ①中北地区教育委員会連合会

月日	件名	出席者
4月24日	平成27年度総会及び研修会	教育委員・教育長
5月26日	第1回教育長部会	教育長
6月5日	第2回教育長部会	教育長
8月4日	第1回理事会	教育長・教育長職務代理
2月29日	第2回理事会	教育長・教育長職務代理

②山梨県市町村教育委員会連合会

月日	件名	出席者
7月14日	第1回常任理事会	教育委員
7月28日	第1回理事会	教育委員
10月27日	秋季研修会	教育委員・教育長
2月8日	第2回理事会	教育委員
2月19日	定期総会及び春季研修会	教育委員・教育長

③県外研修

月日	件名	出席者
5月14日 15日	関東地区都市教育長協議会総会（千葉県 東京ベイ幕張ホール）	教育長
5月21日 22日	第67回全国都市教育長協議会定期総会並びにこ研究大会 （神奈川県 厚木市文化会館）	教育長
10月6日	中北地区教育委員会連合会 教育事情県外視察研修 （長野県 青木村）	教育委員・教育長
11月26日	南アルプス市教育委員会県外研修（東京都 文部科学省）	教育委員・教育長

(5) その他各種大会・行事への出席 ※全教育委員が出席対象のみ掲げております。

月	件名
4月	○市立小中学校入学式 ○南アルプス桃源郷マラソン大会
6月	○小学生ホッケー大会 ○青少年育成南アルプス市民会議総会
7月	○社会を明るくする運動 ○市民体育祭り
9月	○健康スポーツ教室 ○白根巨摩中公開授業(英語拠点校)
10月	○市制祭 ○ふれあいウォークラリー大会 ○県市町村教育委員研修会 ○美術館企画展 オープニングセレモニー ○楡形中拡大校内研究会
11月	○小学生ホッケー交流大会 ○市子ども若者育成支援推進大会 ○芦安小中英会話科学学校 説明会 ○市駅伝大会 ○若草中・白根百田小公開研究会 ○市内全域あいさつ運動
1月	○成人式 ○白根東小公開授業（英語拠点校）○南湖小拡大校内研究会
2月	○指定校研究発表会・教育講演会
3月	○スポーツラリー大会、○市立小中学校卒業式 ○退職・市外転出教職員離任式

## 2 教育委員会の活動に対する点検及び評価

教育委員会としての自らの活動内容を「教育委員会の定例会議・臨時会」、「総合教育会議」、「教育委員会と事務局の連携」、「教育委員の自己研鑽」及び「学校・教育施設への支援」の5項目に分け、それぞれに点検項目を設け、教育委員自らがその目的に照らし、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

また、その他の意見シートにおいては、教育委員会事務局の活動の中で、特に気がついた点を記載しました。

### (1) 教育委員会の定例会議・臨時会

点検項目	会議の開催回数	評点	3.0
実績	○定例会 12 回、臨時会 1 回 ・教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月 1 回開催した。更に必要が生じたため、臨時会を 1 回開催した。 ・限られた時間の中、効率的な会議運営を図った。		
評価の視点	①議案はいずれも慎重に審議を行い、内容により継続的に審議を行った。 ②必要な会議の回数は確保されている。 ③判断が難しい議案には、十分な時間をとり慎重な審議が行われた。		

### (2) 総合教育会議

点検項目	会議の開催回数	評点	3.3
実績	○年 5 回 ・平成 27 年 6 月、総合教育会議運営要綱を設置し、市長召集のもと会議を開催した。 ・市長と教育委員会の連携強化、協力体制による教育行政推進を図ることが可能となった。 ・教育行政の諸問題等について、限られた時間の中で、効率的な会議運営に努めた。		
評価の視点	①本市が抱えている教育行政に係る諸問題について、意見交換を行うことで、ふるさと教育に繋がれば良いと考える。 ②教育行政のみではなく、児童を支える親、特にひとり親に対して出来るだけ支援が現実的に行われ、安心して児童に親が関わられるよう、既存の条例等を点検し、また、安定した親の関わりをベースに、児童が学校で楽しく学び育っていけるよう、広い視点を大切にしていきたい。 ③総合教育会議で 4 回にわたり協議を重ね、教育大綱を策定し、市が目指す教育の理念、基本方針、施策の方針を掲げることができ大変よかった。		

(3) 教育委員会と事務局との連携

点検項目	情報提供等	評点	3. 3
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議案や資料を事前に配布することで、会議等までの調査研究が可能となるよう、情報提供を行った。</li> <li>・会議日程についても、事前調整を図り、可能な限り出席できるよう綿密な連絡調整を行った。</li> <li>・参考文献等の情報提供についても、速やかに行った。</li> </ul>		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①会議資料等を事前に送って頂く事で、あらかじめ問題点を整理して、会議に臨むことができた。</li> <li>②分かりやすい説明があり、会議の事案への理解が深まってよかった。</li> <li>③日程調整を丁寧にしていただき、本当にありがたかった。</li> <li>④学校設備に問題が生じた時、現状と見通しについて、事務局より詳細な報告を受けた。</li> </ul>		

(4) 教育委員の自己研鑽

点検項目	研修会等への参加	評点	3. 2
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中北地区教育委員会連合会県外研修（長野県 青木村）に参加した。</li> <li>・南アルプス市教育委員会県外研修（東京都）に参加した。</li> <li>・その他 各種研修会、会議へ参加した。</li> </ul>		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種研修会等へ参加することで、教育委員としての知見を深める上で、大変有益であった。</li> <li>②各種研修会で行われた講演は、有益な内容であった。</li> <li>③研修会日程がもう少し早く把握できれば、より参加することができる。</li> <li>④関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会（東京大会）や山梨県市町村教育委員会連合会（春季・秋季）の研修会は、国の教育の動向や課題、山梨県の教育の現状などを知る上で大変、有意義であった。</li> <li>⑤中北地区教育委員会連合会教育事情県外視察研修では、長野県青木村の教育への取組みが、非常に参考となった。</li> <li>⑥南アルプス市教育委員会の研修では、文部科学省の今後の英語教育方針を知ることができ、有益であった。</li> </ul>		

(5) 学校・教育施設への支援

点検項目	学校訪問	評点	3.8
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の小中学校 22 校の学校訪問を行い、各学校の特色ある学校経営の取組み状況を聴取した。</li> <li>・各教室の授業内容を視察し、給食の試食をする中で、学校現場との意見交換を図った。</li> </ul>		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学校が抱える課題、児童生徒の実態、教職員の指導力などを理解することができた。</li> <li>②各クラスの見学が短時間であったため、児童生徒の実態把握が難しかった。</li> <li>③給食の試食については、児童生徒と共にできると、実態把握が深まると考える。</li> <li>④各学校の特色・課題などを包み隠さず話していただき、また、実際に授業の様子を見ることで学校現場への理解が深まった。</li> <li>⑤各学校の教育活動の様子や教職員、児童生徒の実態や課題、施設設備の現状や課題など、理解することができた。</li> <li>⑥各学校の教職員、児童生徒のありのままの姿を見ることができ、大変有益であった。</li> </ul>		

(6) その他の意見シート

意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研究指定校の公開研究発表会は、非常に活発であり、その結果を十分生かした授業となっている。</li> <li>②美術館や図書館など開かれた館を目指し数々の工夫がされ、その成果が出ている。</li> <li>③文化財課の取組みはフィールドワーク、知名度 UP 力ともにすばらしく、市民へ広く貢献している。</li> <li>④市単講師等の配置は、学校教育の充実に多大な貢献をしている。</li> <li>⑤研究指定校の公開研究発表会は、その成果が市内各校に共有され、日常の教育実践に非常に役立っている。</li> </ul>
----	--

## IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

### 1 教育委員会事務局の事務事業について

南アルプス市では、平成 27 年度 新たな第 2 次南アルプス市総合計画を策定し「自然と文化が調和した幸せ創造都市・南アルプス」という将来像を掲げております。教育委員会部門においては、この将来像の実現のため、二つの基本政策が設けてあります。

一つ目の基本政策を「安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成」とし、その施策名を「市民参加のまちづくり」としております。

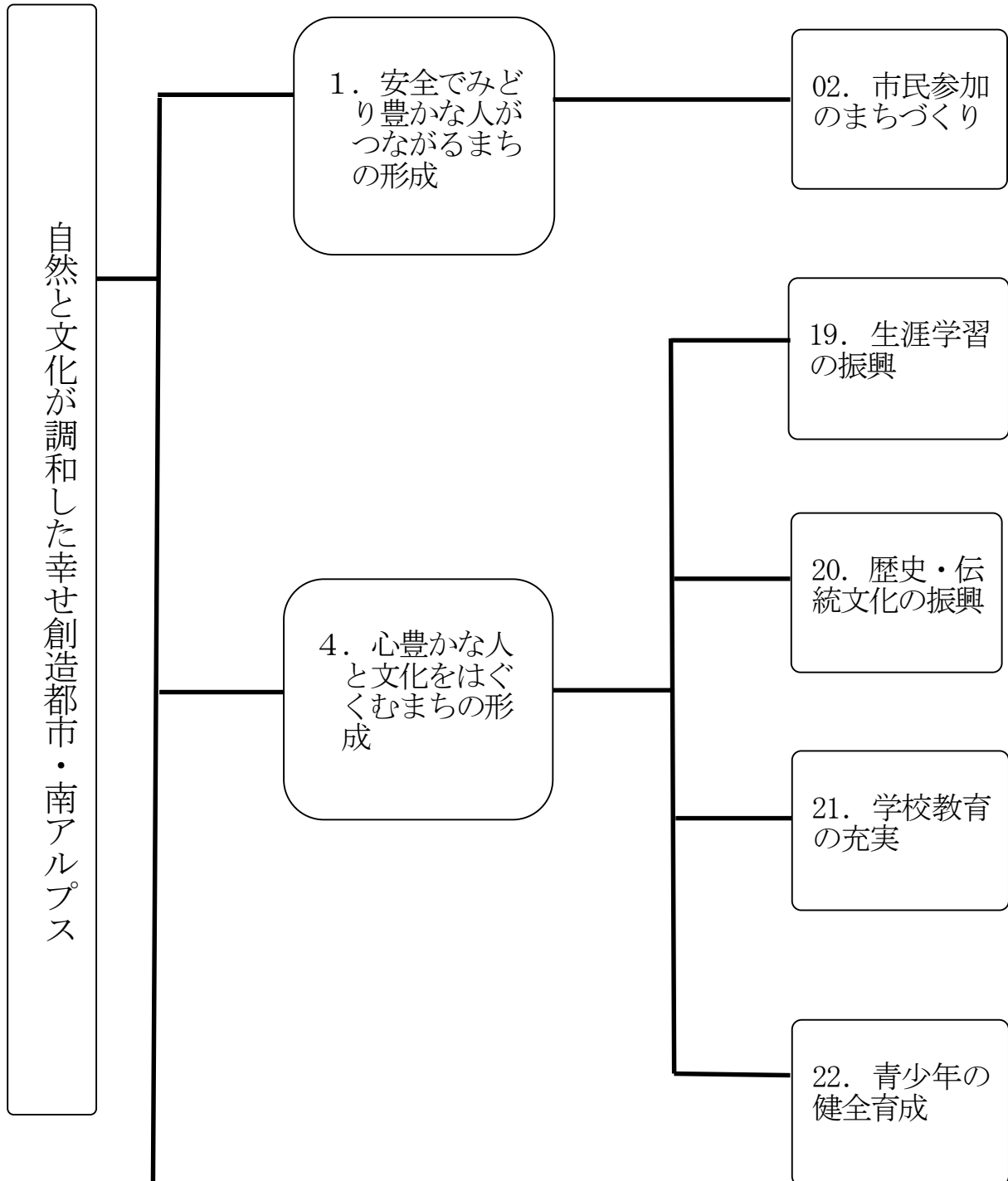
二つ目の基本政策は「心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成」とし、その施策名を「生涯学習の振興」、「歴史・伝統文化の振興」、「学校教育の充実」、「青少年の健全育成」としております。

2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋）

〔将来像〕

〔基本政策〕

〔施策名〕





### 3 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について

(1) 基本政策 : 1. 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 02. 市民参加のまちづくり [3 事業]

事務事業名	評点	評価の視点	所属
青少年国内交流事業 (津別町)	3	25 人 (児童 20 人、引率者 5 人) が参加。ツリーイングや農場体験、木工体験など、山梨ではできないことを体験することができ、津別町への理解を深めることができた。今後も参加者確保に努力する。	生涯学習課
青少年国内交流事業 (小笠原村)	3	21 人 (生徒 16 人、引率者 5 人) の受け入れで、芦安中学校生徒との交流会を実施し、子どもたちとのふれあいの時間を持つことができた。今後も継続して実施していく。	
青少年国内交流事業 (穴水町)	3	25 人 (児童 20 人、引率者 5 人) の受け入れで、若草南小学校児童との交流会を実施し、子どもたちとのふれあいの時間を持つことができた。今後も継続して実施していく。	

(2) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 19. 生涯学習の振興 [67 事業]

事務事業名	評点	評価の視点	所属
公民館運営管理事業	3	公民館長、主事が中心となり、各地区の公民館活動を実施し、市民の文化向上を図る。2,597 人の参加があり、前年比 2.2% 減少したが、ほぼ前年並みの参加者があった。	生涯学習課
豊文化教室運営管理事業	4	陶芸文化の普及促進が図られ、効率的な運営が推進された。利用者数 987 人、前年比 7.8% 増となった。	
白根中央公民館運営管理事業	4	公民館長、主事が中心となり、各地区の公民館活動を実施し、市民の文化向上を図る。1 講座、85 人の参加があり、前年比 70% 増となった。	
生涯学習推進事業	3	市民の学習機会の充実を図り、自主的な学習活動を支援する。講座 43 回実施、参加者 659 人、前年比 35% 減であった。参加者減の要因は、一講座を適正定員 (20 人程度) としたこと、天候不良で星空観察会が 3 回中止となったため。今後も要望が多い講座実施を継続し、新規講座も開催していく。	
社会教育関係団体活動支援事業	3	各地域の社会教育団体 23 団体に対し補助金を交付し、市民が積極的に社会教育活動に参画する事業。活動団体の増減なし。	
八田高度農業情報センター運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は 10% 未満 (7.9%) となっており、施設の利用環境は充実している。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
若草生涯学習センター運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(7.9%)となっており、施設の利用環境は充実している。	生涯学習課
甲西農村環境改善センター運営管理事業	3	効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(7.9%)となっており、施設の利用環境は充実している。	
芦安高齢者コミュニティーセンター運営管理事業	3	本施設は、芦安中央公民館としての位置付けである。伝統文化活動の「夜叉神太鼓」の練習場や、高齢者のおやつサービスの提供場所として利用している。利用者数739人、前年比2.5%増となった。公共施設再配置方針に基づき施設老朽化のため、H30年度に取り壊し予定である。	
白根コミュニティー館運営管理事業	3	効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(7.9%)となっており、施設の利用環境は充実している。公共施設再配置方針に基づき、(仮称)白根生涯学習センターを新設し、本施設は障害者施設として活用予定である。	
ふるさと天文館運営管理事業	3	ボランティアグループにより、50cmの望遠鏡を使い天体及び天文現象等の観測による解説を実施。利用者数252人、前年比は事業実施時の天候の関係により、33%減となった。	
楡形北地区農村環境改善センター運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(7.9%)となっており、施設の利用環境は充実している。H28年度から市直営施設として管理予定である。	
楡形西地区農村環境改善センター運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(7.9%)となっており、施設の利用環境は充実している。H28年度から市直営施設として管理予定である。	
南アルプス市働く婦人の家運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。地区委員会により管理運営を行い、利用者31,090人、前年比26.8%減であったが、市民が利用しやすく効率的な施設運営が推進されている。H28年度から市直営施設として管理予定である。	
生涯学習指定管理施設等維持補修事業	3	指定管理となっている生涯学習施設等の緊急修繕や維持補修事業。修繕14箇所、7,205千円を実施。	
桃源文化会館運営管理事業	3	市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(7.9%)となっており、施設の利用環境は充実している。	
桃源文化振興協会運営支援事業	3	一般財団法人桃源文化振興協会の人件費補助事業である。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
市文化協会活動支援事業	3	一般財団法人桃源文化振興協会へ事務委託し、各地区の文化団体に補助金を交付している。前年比17部86人減であり、要因は、実績未提出9部179人、休部、廃部等で実質会員数が減少したこと。生涯にわたり学習活動を行っている割合33.2%（肯定、やや肯定、H27年度）、前年比5.9%増となっている。	生涯学習課
スポーツ推進委員運営事業	4	スポーツ推進員が行う教室、大会の参加者数を成果の指標とし実施。参加者1,667人、前年比11%増となっている。今後も参加者確保に努力する。	
南アルプス市体育協会支援事業	4	体育協会主催事業数を成果の指標とし、大会、教室を開催した。桃源郷マラソン大会、市駅伝大会他2事業を実施。前年度から2事業増加している。今後も事業を継続していく。	
県外スポーツ大会出場支援事業	3	県代表として、県外大会へ出場する際、経費負担軽減のための補助金を交付する。今後も県外大会で成果を上げられるよう継続していく。	
南アルプス市ホームタウンゲームの活動支援事業	3	ヴァンフォーレ甲府の本市サンクスデーで特産品を配布しPRを実施した。今後も本市PRのため、継続していく。	
スポーツ大会等保険加入事務	3	各種スポーツ教室等の傷害保険に加入している。これまで大きな怪我や事故はないが、今後も、もしもの事故に備え継続していく。	
小中学校ホッケー指導者派遣事業	3	ホッケー大会参加者数を成果の指標とし、指導者を派遣した。現在白根地区のみであり、参加者数は横ばいである。今後は、白根地区以外の市内小学校が大会へ参加するよう働きかけを行っていくとともに、派遣を継続していく。	
市ホッケー大会運営事業	3	ホッケー競技の普及を成果の指標とし大会を開催した。現在白根地区のみであり、参加者数は横ばいである。今後は白根地区以外の市内小学校へ普及できるよう働きかけを行っていくとともに、大会を開催していく。	
全国スポ少ホッケー交流大会派遣・参画事業	3	市ホッケー大会の優勝校を全国大会へ派遣した。今後も市の特色あるスポーツとして、出場選手に全国レベルを体感しホッケー競技への意欲を増すと同時に、技術の向上を図れるよう継続していく。	
桃源郷マラソン大会活動支援事業	3	市内外からの参加者が8,000人であり、マラソン大会は14回を数え定着してきている。今後も参加者が見込めるため、継続していく。	
各種スポーツ教室開催事業	4	参加者数を成果の指標とし、初心者スキー・スノーボード教室を開催している。参加者94人、前年比40%増となっている。今後も参加者確保に努力する。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
スポーツ少年団日独同時交流（受入）支援事業	3	日独両国のスポーツ少年団及び指導者の友好と親善を深めるための相互交流。H27年度は南アルプス市が受入の当番となったため、負担金を交付し交流を深めた。単年度事業。	生涯学習課
社会体育施設維持管理事業	4	市民が安全で便利に体育施設を利用し、年間を通しスポーツに親しむため、施設修繕を実施。利用者数 671,387 人、前年比 15%増となっている。今後も継続していく。	
社会体育施設指定管理事業	4	指定管理者に適正な管理運営を委託する事業。白根B&G海洋センターは利用者が増加している。指定管理施設全体の利用者数 101,623 人、前年比 7%増となっている。今後も継続していく。	
屋外照明施設LED化事業	3	社会体育施設 21 施設の屋外照明を H30 年度までに LED 化に改修し、電気代、球替え等維持管理費を削減していく。H27 年度は実施設計を行った。今後、3 ヶ年で 21 施設の工事を実施していく。	
八田ふれあい図書館維持管理事業	3	展示や掲示を工夫し、利用者が使いやすい環境整備を行っている。開館日数を成果指標とし達成度 100%。今後も館内の環境美化に努め、市民に利用しやすい環境を提供していく。	市立図書館
八田ふれあい図書館運営事業	3	特色ある「農業関係資料」の収集に努めた。成果指標であるレファレンス件数は達成度 110%。今後も利用者の求める情報の提供や、市民の暮らしに役立つサービスを継続していく。	
八田ふれあい図書館資料提供事業	3	新聞コーナーでは、提供している新聞が一目でわかるような工夫をした。成果指標である雑誌の貸出冊数は達成度 106%。今後も市民の暮らしに役立つ最新情報を提供していく。	
八田ふれあい図書館子どもの読書活動推進事業	3	夏や冬の工作教室では魅力ある内容を企画し、参加者の増加を図った。成果指標である 18 歳以下の貸出点数は、達成度 95%。今後も魅力ある事業を工夫し、参加者の増加を図っていく。	
八田ふれあい図書館閉架書庫改修事業	3	閉架書庫を固定式から可動式に改修し、資料の保存機能を充実するとともに、白根の閉架書庫の資料も八田に移動した。今後は市内の資料の効率的な保存ができるよう、計画的に整理していく。	
白根桃源図書館維持管理事業	3	八田への閉架書庫の資料の移動に伴って、保存資料の確認を行い、効率的な運用ができるようにした。開館日数を成果指標とし達成度 100%。今後も施設の安全な維持管理に努めていく。	
白根桃源図書館運営事業	4	展示や掲示を工夫し、広報活動を積極的に行なった。成果指標であるレファレンス件数は達成度 206%。今後も図書館サービスの向上と市民への周知を図っていく。	
白根桃源図書館資料提供事業	3	資料の展示方法を工夫し、市民に最新情報を提供した。成果指標である雑誌の貸出冊数は達成度 117%。今後も市民に最新情報を提供するために、サービスを周知・継続していく。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
白根桃源図書館子どもの読書活動推進事業	3	隣接する児童館と連携しながら、おはなし会を実施している。成果指標である18歳以下の貸出点数は達成度117%。今後も関係機関と連携し、子どもの読書活動を推進していく。	市立図書館
わかくさ図書館維持管理事業	3	図書館が狭いため、生涯学習センターの「児童ふれあい室」に幼児向けの本を置いている。成果指標である開館日数は達成度100%。今後も指定管理者と協力し、より良い環境を提供していく。	
わかくさ図書館運営事業	4	図書館内の展示方法を工夫し、効果的に利用者にアピールした。成果指標であるレファレンス件数は達成度129%。今後も市民の暮らしに役立つ、情報やサービスの提供を継続していく。	
わかくさ図書館資料提供事業	3	パンフレットの整理やトピックスの提供など、工夫を凝らした。成果指標である雑誌の貸出冊数は達成度103%。今後も市民が必要とする最新情報提供のための、サービスを継続していく。	
わかくさ図書館子どもの読書活動推進事業	3	指定管理者と連携を取りながら、合同事業を実施している。成果指標である18歳以下の貸出点数の達成度は95%。今後も地域に根ざした、子どもの読書活動の推進を図っていく。	
楡形図書館維持管理事業	3	閉架書庫の整理を積極的に行い、効率的な利用を図った。成果指標の開館日数の達成度は100%。H28年度はリニューアル工事を行い、市民に魅力的な読書環境を提供していく。	
楡形図書館運営事業	3	レファレンスに対応できる体制を強化したことで、成果指標であるレファレンス件数は達成度113%。今後も中央館としての資料の充実に努め、市民の必要とする情報を提供していく。	
楡形図書館資料提供事業	3	中央館として新聞16紙・雑誌157誌を市民に提供している。成果指標である雑誌の貸出数は達成度97%。今後も市民に最新情報を提供するため、サービスを継続していく。	
楡形図書館子どもの読書活動推進事業	3	子どもの読書活動に関するアンケート調査を実施した。成果指標である18歳以下の貸出資料数は達成度90%。H28年度には第3次「南アルプス市子どもの読書活動推進計画」を策定する。	
図書館協議会運営事務	3	年3回の図書館協議会を開催し、市立図書館の運営について協議した。成果指標である提言・意見等の答申の数は達成度100%。今後も要望や意見を図書館運営に反映させていく。	
図書館システム管理事業	3	定期的にシステム会議を実施し、図書館システムの安全な管理を行っている。成果指標である資料貸出総数は達成度101%。今後も安定的な環境を維持し、システムの運用を図っていく。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
図書館生涯学習推進事業	4	定期的な朗読会のほか、シニア講座、教養講座、ビジネス支援講座などを実施した。成果指標である図書館事業の参加者数は達成度 166%。今後も魅力的な講座等を企画・周知していく。	市立図書館
ブックスタート事業	3	健康増進課窓口でブックスタート資料を置き、PRを図った。成果指標である「おはなし会 0.1.2」の参加者は達成度 86%。今後も健康増進課と連携しながら継続していく。	
図書館資料購入事業	3	選書会議を週 1 回行い、購入資料の検討により購入している。成果指標である資料貸出総数は達成度 101%。今後も市民の暮らしに役立つ資料の収集を継続していく。	
図書館事務研修事業	3	職員の研修会に積極的に参加した。成果指標である研修参加者数は達成度 100%。研修の成果を今後の図書館運営に反映させていく。	
楡形生涯学習センター管理事業	3	H26 年度より市の直営となり、図書館で管理している。ホールの利用件数を成果指標とし達成度 104%。今後も環境美化や安全管理に努め、市民が利用しやすい管理・運営をしていく。	
甲西図書館維持管理事業	3	館内の美化や閉架書庫の整理に努めた。成果指標である開館日数は達成度 100%。H28 年度には図書館の拡張工事を行い、市民がより快適に利用できる環境を、提供していく。	
甲西図書館運営事業	4	本の特集コーナーや壁面掲示を工夫し、利用の促進を図った。成果指標であるレファレンス件数は達成度 122%。今後も PR を図り、市民の課題解決の支援を充実していく。	
甲西図書館資料提供事業	3	地域の新聞記事のスクラップを充実させ、レファレンスなどにも活用できるよう整理した。成果指標である雑誌の貸出冊数は達成度 100%。今後も市民に最新の情報を提供していく。	
甲西図書館子どもの読書活動推進事業	3	児童館と連携し「春のおはなし会スペシャル」などを行っている。成果指標である 18 歳以下の貸出点数は達成度 106%。今後も関係機関と連携を図りながら、事業を継続していく。	
芦安分館運営事業	3	毎年、芦安新緑やまぶき祭に参加し、分館の PR を行っている。成果指標である資料予約件数は達成度 83%。今後も地域に密着したサービスを継続していく。	
芦安分館資料提供事業	4	利用者のニーズを把握しながら、雑誌の選書を行っている。成果指標である雑誌の貸出数は達成度 146%。今後も地域住民の暮らしに役立つ資料の提供をしていく。	
芦安分館子どもの読書活動推進事業	4	秋のお楽しみ会では、小学生と高齢者の交流を図っている。成果指標である 18 歳以下の貸出点数は達成度 122%。今後も学校等と連携しながら、読書活動の推進を図っていく。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
白根桃源美術館維持管理事業	3	H25年度より市民ギャラリーとして活用するが、H27年度末で施設を閉館した。	市立美術館
春仙美術館維持管理事業	3	美術館の環境を整備し、来館者が気持ちよく作品や施設を観覧できるようにする。また、収蔵作品が良好な状態で保管できるように、維持管理を行っていく。	
美術館企画展事業	3	多様な芸術文化を鑑賞する機会を提供するため、「竹下夢二・高島華宵とその時代展」を実施した。質の高い芸術文化に接することにより、市民の文化意識を高める。また、入館者の増加促進に繋げていく。	
春仙美術館常設展	3	名取春仙はもとより、市や山梨にゆかりのある作家を中心に展示を行ってきた。当館コレクションから話題性のある作品を展示することにより、親しみがあり、芸術文化の楽しみを発見できる事業を展開していく。	

(3) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20. 歴史・伝統文化の振興 [24 事業]

事務事業名	評点	評価の視点	所属
夜叉神太鼓保存会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。会員数は前年と同数の 10 人。	生涯学習課
甲州遠光太鼓保存会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。会員数は前年と同数の 15 人。	
長清太鼓保存会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。会員数は前年と同数の 11 人。	
小笠原長清公顕彰会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。小笠原流流鏑馬、小笠原流礼法講座(全 10 回)を開催した。礼法講座の参加者は、前年と同数の 40 人であった。	
西新居御崎神社神楽保存会活動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。前年は休止していたが、H27 年度は会員数 12 人で活動を再開した。	
文化財保護活用事業	3	文化財等を地域の宝として、次世代に伝えていこうとする市民の割合を指標とし、目標の 41% に対し、回答は 47.5% であった。今後とも文化財を適切に保護・保存するよう努めていく。	文化財課
文化財教育普及事業	4	実施した講座等の回数、参加人数を指標とし、達成率それぞれ 116% (221 回)、146% (11,814 人) であった。今後とも地域ニーズをくみ上げ、より効率的な事業執行に努めていく。	
宝珠寺のマツ松くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後 12 年間木の状態は良好に保たれている。今後も補助を継続していく。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
鏡中条のゴヨウマツ松くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後 12 年間木の状態は良好に保たれている。今後も補助を継続していく。	文化財課
長谷寺の防災施設保守点検支援事業	3	建造物が良好に維持された年数を成果の指標とし、文化財防災施設保守点検事業の補助を行った。合併後 12 年間建造物は良好に保たれている。今後も補助を継続的に実施していく。	
文化財教育普及看板設置事業	3	NHK 大河ドラマ「真田丸」に登場する本市ゆかりの真田昌幸、跡部勝資について、説明板を設置した。今後とも、市民が市の歴史に親しみを持てるような情報発信を行っていく。	
フィールドミュージアムふるさと学芸員育成事業	4	指標とした伝承館の入館者数は 7,148 人と達成率 110%、育成人数は 100%である。育成したふるさと学芸員は着実に力をつけ、実際にイベントなどでの教育普及の実践も行っている。	
重要文化財木造浅間神像保存事業	3	国庫補助事業であり、年度内に当初設計どおり事業が 100%完了し、実績報告書が出されている。	
県指定文化財木造獅子頭保存支援事業	3	県補助事業であり、年度内に当初設計どおり事業が 100%完了し、実績報告書が出されている。	
埋蔵文化財調査受託事業	3	民間開発に伴う埋蔵文化財の整理作業 2 件を受託し、適切に記録保存措置を図った。達成率 100%	
市内試掘確認調査事業	3	市内の遺跡の保護が図られた数を成果の指標とし、達成率は 100%。試掘数は 24 件でほぼ平年並みであった。今後とも遺跡の有無を的確に確認し、適切に遺跡の保護を図っていく。	
埋蔵文化財保存活用事業	3	事業のひとつである体験イベントで、当初の予定の 130%、1,056 人の参加を得るなど事業全体が堅調に推移した。今後とも、埋蔵文化財の保護について、理解を得られるよう事業展開したい。	
国指定史跡「御勅使川旧堤防」整備事業	3	保存整備委員会の開催のほか、庁内ワーキング会議を立ち上げ、史跡整備に向けて全庁的に問題点の共有化を図った。成果は H28 年度以降策定予定の、保存整備計画に反映していく。	
ふるさと文化伝承館(文化財調査事務所)維持管理事業	3	資料の適切な保管、入館者の安全な利用はできていたと考えられる。文化財等を地域の宝として次世代に伝えていこうとする市民の割合を指標とし、目標 41%に対し 47.5%であった。	
ふるさと文化伝承館運営事業	4	文化財等を次世代に伝えていこうとする、市民の割合は目標を上回る 47.5%であった。入館者は 7,148 人で前年比 102%であり、今後とも歴史・文化に対する、市の理解が高まるよう事業展開していく。	
安藤家住宅運営管理事業	3	来館者は 5,552 人となり、3 年ぶりに 5,000 人を回復した。今後はさらなる来館者増を目指しながら、重要文化財そのものの価値を損なわないよう、適切に管理・運営していく。	



事務事業名	評点	評価の視点	所属
安藤家住宅イベント開催事業	4	ふるさと意識や郷土愛を持つ市民の割合を成果の指標とし、「秋祭り」をはじめとしたイベントを開催し、入館者 4,351 人で前年比 128%となった。今後も市民ニーズにあったイベント企画を心がけたい。	文化財課
重要文化財安藤家住宅駐車場・トイレ整備事業	3	年度内に設計どおり竣工している。要望のある滝沢川から大型車を入れるためのスロープと、駐車場へのトイレの設置については、今後も検討していく。	
フィールドミュージアム推進事業	3	市民参加のワークショップを 4 回開催し、市民ニーズのくみ上げと意識の共有化を図ったほか、先進地視察等を実施し、H29 年度以降の本格的な事業推進の基礎固めができた。	

(4) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 21. 学校教育の充実 [75 事業]

事務事業名	評点	評価の視点	所属
教育長交際活動費	3	教育行政執行のために必要な、外部との交際上の必要経費である。今後も内部基準に照らし、厳正に執行されるよう管理していく。	教育総務課
教育委員活動事業	4	定例教育委員会の開催、学校訪問の実施や中北地区教育委員会の研修事業などへ積極的に参加し、教育委員会の円滑な運営と機能向上を図った。	
教育委員会事務局管理事務	3	経常的な事務管理を行った。特に、公用車の燃料代やコピー用紙代の削減を図り、無駄のない予算管理に努めた。	
市単講師派遣事業	4	目的どおり市単講師 34 人の確保ができ、支援を必要としている児童生徒に対し細かな指導ができた。支援が必要となる児童生徒は増加傾向にあり、市単講師の増員も検討課題である。	
司書臨時職員配置事業	3	目的どおり 12 人の臨時職員を配置し、小中学校全てに司書を配置することができた。今後も現状を維持し、図書教育の充実を図る。	
用務員臨時職員配置事業	3	目的どおり児童生徒が快適に学校生活を送ることができるよう、芦安小中学校を除く各小中学校に用務員を配置した。今後も継続して教育環境を維持していく。	
学校図書館蔵書管理事業	3	予算執行率 98.3%。学校図書館の蔵書、貸出、返却をシステムで管理している。今後も学校図書館の有効活用を図るため、継続していく。	
学事管理事務	3	予算執行率 97.0%。教育環境を充実するための学校事務を行っているため、今後も継続していく必要がある。また、できる範囲により学校間で予算計上している経費の一括計上を行い、予算削減に努めていく。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
学校給食費徴収事業	2	99.3%の収納率を成果の指標として、徴収率の向上を図ったが、徴収率99.08%であった。今後は他市町村の徴収方法等を参考に、更なる徴収率の向上を目指す。	教育総務課
学校給食費支援事業	3	小中学校へ3人以上の子どもが通っている保護者のうち、85%に当たる270人の保護者への支給を、成果の指標とした。申請者225人、支給者222人であった。学校との連絡を密に行い、申請漏れのないように努めたい。	
都市教育長協議会参画事業	3	全国都市と関東地区都市の教育長協議会へ参加し、総会及び研究会等幅広い情報収集を図った。	
巨摩高校定時制教育振興会参画事業	3	本市のほか、地域自治体（富士川町、中央市）や生徒の雇用主、同窓会等で組織され、生徒の部活動、国際交流事業、校外活動などの支援を目的として負担金を支出している。今後も適正に執行されるよう管理していく。	
中巨摩学校給食調理員部会参画事業	3	調理員の資質向上のために実施されている研修会に全員参加し、目標を達成できた。今後も調理員全員が参加できるようにしていく。	
学校災害補償保険事業	3	学校施設の瑕疵等、財物の滅失等の損害、学校管理下における児童生徒等の事故等の災害に対する保険に加入。適正に事務を執行した。	
小中学校清掃委託事業	3	予算執行率98.1%。入札により選定した業者に小中学校22校の校舎、体育館等の清掃を委託した。今後も北部・南部エリアに分けて適正に実施していく。	
第二次小中学校教育系情報ネットワーク整備事業	3	校務を支援するシステムにより、教職員の事務効率の向上が図られた。今後もシステムを活用し事務の効率を図り、児童生徒と向き合う時間を確保していく。	
若草南小学校情緒障害通級指導教室	3	市立小学校の普通学級に所属する、軽度の情緒障害児童を対象に音楽療法を行い、より良い発達につながっているため、今後も継続していく。	
学校消火器管理事業	4	市立小中学校に設置してある消火器の入替えを、教育総務課予算へ一括計上し、大量に購入することにより経費削減が図れた。今後も継続して入替えを行い、経費削減を図る。	
小林愛則育英奨学会支援事業	3	将来社会の中核となる人材を育成することを目的とし、高校3年間奨学金を給付している。今年度の給付者は7人（1年生3人、2年生2人、3年生2人）、高校卒業者は3人の内、2人は大学へ進学、1人は就職した。今後も適正な給付に努める。	
芦安活性化対策育英奨学金貸付事業	3	芦安地区の過疎対策事業であり、滞りなく対象となる高校生の保護者の申請に対し、奨学金を貸与した。貸与者は2人であるが年々、申請者数が減っているが、今後も適正な貸与及び償還事務に努めていく。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
南アルプス市奨学金貸与事業	3	申請により高校生及び大学生の保護者に対し、要件審査を経て奨学金を貸与した。既存の貸与者に対しても、在学証明書の提出により継続審査を行った。現在、高校生2人、大学生27人に対し貸与している。今後も適正な事務の執行に務めていく。	教育総務課
小学校管理費	3	予算執行率85.5%。限られた予算の中で、各学校の管理費を配分している。今後も予算を圧縮されるなか、必要な予算を確保できるよう検討していく。	
小学校準要保護就学援助事業(単独)	3	適正に事務処理し、就学援助を必要とする児童392人の家庭に対し、経済的負担を軽減することができた。今後も現状維持で対応していく。	
小学校施設設備整備事業(単独)	3	予算執行率95.84%。学校からの修繕・改修要望に対し整備できた校舎、屋内運動場等の箇所数を成果指標としている。学校要望を精査し、緊急度の高い施設から整備することができた。	
八田小学校校舎大規模改造事業	3	老朽化が著しい校舎(普通教室棟、特別教室棟、食堂棟)に対する大規模改造工事を実施する。H27年度は、特別教室棟の改造工事を行い予定どおりの進捗を得ることができた。	
若草小学校屋外プール改築事業	3	老朽化が著しい屋外プール及びプール附属屋の改築工事を実施する事業である。H27年度は、既存プールの解体中に既存プールの基礎杭が発見されたため、工法の変更を余儀なくされた。これに伴い工程に遅れが生じてしまった。	
空調設備設置事業(小学校施設)	3	市内小学校へ空調設備を設置する。H27年度は、予定どおり実施設計を実施することができた。	
白根源小学校屋内運動場非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化工事を予定どおり実施することができた。	
豊小学校校舎大規模改造事業	3	老朽化が著しい校舎に対する大規模改造工事を実施する。H27年度は、予定どおり実施設計を実施することができた。	
落合小学校屋内運動場改築事業	3	老朽化が著しい屋内運動場の改築工事を実施する。H27年度は、予定どおり耐力度測定調査を実施することができた。	
中学校管理費	3	予算執行率100%。限られた予算の中で、各学校の管理費を配分している。今後も予算を圧縮されるなか、必要な予算を確保できるよう検討していく。	
中学校関東大会・全国大会支援事業	3	関東、全国大会に出場する経費の一部を補助金として交付することにより、自己負担が少なく大会に出場できる。学校教育の一環であり、今後も継続していく必要がある。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
中学校準要保護就学援助事業（単独）	3	適正に事務処理し、就学援助を必要とする生徒 248 人の家庭に対し、経済的負担を軽減することができた。今後も適正に対応していく。	教育総務課
栄養士・調理員管理事業	3	楡形・甲西地区の給食施設に勤務している、市単独栄養士及び調理員の賃金を支出している。休暇代替、アレルギー対応の調理員を常に確保し、安心して業務を行えるよう取り組んでいる。	
学校給食食材放射線検査事業	3	各給食施設が隔月、2 検体（食材）の検査を行っている。市が定めた給食食材への利用基準を超えた放射線量は検出されていない。複数の施設の食材をまとめて持ち込むなど、事務の合理化を図っている。	
空調設備設置事業（中学校施設）	3	市内中学校へ空調設備を設置する。H27 年度は、急遽、改築することとなった白根御勅使中学校を除き、予定どおり工事を完了することができた。	
白根御勅使中学校校舎外壁非構造部材耐震化事業	3	普通教室棟の 1 階部分を施工していたところ、躯体に問題箇所が発見され、1 階部分の施工を取りやめた。それ以外の工事については、予定どおり実施することができた。	
八田中学校屋内運動場非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化工事を予定どおり実施することができた。	
楡形中学校屋内運動場非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化工事を予定どおり実施することができた。	
白根巨摩中学校屋内運動場非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化工事を予定どおり実施することができた。	
八田中学校校舎等非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28 年度事業を前倒しし、H27 年度は、実施設計を実施した。	
白根巨摩中学校校舎等非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28 年度事業を前倒しし、H27 年度は、実施設計を実施した。	
白根御勅使中学校武道場非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28 年度事業を前倒しし、H27 年度は、実施設計を実施した。	
楡形中学校校舎等非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。H28 年度事業を前倒しし、H27 年度は、実施設計を実施した。	
白根御勅使中学校改築事業	3	校舎外壁非構造部材耐震化事業において、普通校舎の躯体に問題箇所が発見され、専門家による調査分析を行ったところ、改築の必要性が示された。H31 年度から予定していた改築事業を前倒しし、改築事業に着手した。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
中学校施設設備整備事業 (単独)	3	予算執行率 99.03%。学校からの修繕・改修要望に対し整備できた校舎、屋内運動場等の箇所数を成果指標としている。学校要望を精査し、緊急度の高い施設から整備することができた。	教育総務課
白根八田学校給食センター給食事業(学校給食)	3	食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応や、食育指導を行った。食材購入については、地産地消の食材もより多く取り入れるなど、栄養士部会で視察等も行い、学校給食を安心安全に提供するよう努めた。	
白根八田学校給食センター維持管理事業	3	学校給食を安心安全に提供するための、給食施設及び厨房備品の維持管理を行った。器機の故障などはリサイクルや職員が修理するなど、経費削減にも努めた。	
若草学校給食センター給食事業	3	食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応や、食育指導を行った。食材購入については、地産地消の食材もより多く取り入れるなど、栄養士部会で視察等も行い、学校給食を安心安全に提供するよう努めた。	
若草学校給食センター維持管理事業	3	学校給食を安心安全に提供するための、給食施設及び厨房備品の維持管理を行った。器機の故障などはリサイクルや職員が修理するなど、経費削減にも努めた。	
芦安学校給食センター維持管理事業	3	休止中の給食施設及び厨房備品の維持管理を行った。	
新学校給食センター建設事業	3	定期的に工程会議を実施し、工事内容等の確認を行っている。工事の着工は遅れたが、ほぼ目標どおり進めている。	
学校給食受配校施設改修事業	3	新学校給食センター建設に伴い、各学校給食施設を配膳室に改修する工事である。学校と設計者との連絡を密にし、実施設計を終了した。	
新学校給食センター運営事業	3	H28年2学期より、新学校給食センターからの給食の配送が開始となる。配送トラックは施設ごと形状、コンテナサイズも異なり、発注から納車まで5ヶ月程度の期間が必要となる。補正予算確保により、次年度に事業を繰越した。	
小林愛則育英奨学基金積立金	3	基金へ預金利子を積み立てた。今後も適正な執行に努める。	
南アルプス市奨学基金積立金	3	基金へ預金利子及び貸与者からの返還金を積み立てた。今後も適正な執行に努める。	
中学校部活動コンクール・コンテスト参画事業	3	各種大会に参加するための負担金の支払いを行う。今後も現状を維持して、生徒の活動の場を広げていく。	
小学校地域ふれあい道徳教育推進事業	3	「心の教育の充実」を図るため、地域の人々のふれあいを中心とし道徳教育に取り組んだ。今後も学校教育の充実を図る。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
中学校地域ふれあい道德教育推進事業	3	「心の教育の充実」を図るため、地域の人々のふれあいを中心とし道德教育に取り組んだ。今後も学校教育の充実を図る。	教育総務課
中学校ヘルメット購入支援事業	3	生徒の自転車通学の安全を図るため、ヘルメット購入代金の半額を補助した。今後も継続し生徒の登下校時の安全を守る。	
授業改善プラン実践事業	3	全国学力学習状況調査や山梨県学力把握調査の結果を分析し、実態把握しながら授業改善を行った。外部講師の招聘をしながら、年2回公開研究会を行い、市内外の小中学校や高校の教職員の参加もあった。公開研究会を通し、成果を還流している。	南アルプス教育推進課
教育支援センター運営管理費	3	学校登校が困難な生徒への学習支援を行い、保護者、学校との連携を図る中で、臨床心理士の教育相談を実施し、学校復帰を目指し取り組んだ。(在籍者10人の内、学校復帰0人、一部復帰1人、高校進学5人(3年生合格)、障害を持つ児童生徒の適切な学習を見極めるため、巡回訪問、就学相談を実施した。	
英語教育強化地域拠点事業	4	白根地区4校の指定校を中心に、英語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んだ。指導と評価の一体化、地域人材を活用した授業形態を検証し、異校種間連携と職員研修を計画的に行い、市内22校に広めるための協議会も実施した。	
学びの質を高める授業づくり推進事業	4	指定校(2年次2校、1年次2校)を定め、児童生徒が互いの意見や考え方を聴き合い、学び合う授業づくりを目指し研究を深めた。その成果を授業公開し交流を図り、年度末には市内22校の教職員が一堂に会し、その成果報告会と講師を招聘しての教育講演会を行った。	
南アルプス自然体験推進事業	4	ユネスコスクールに認定されている芦安小・中学校を指定校として、南アルプスの自然を学ぶ体験活動を行っている。特に、芦安ファンクラブの支援を受け、中学校では仙丈ヶ岳登山、小学校では栗沢山登山を行った。	
いじめ・不登校未然防止推進事業	4	市内5校を指定し、自分の気持ちをコントロールするためのソーシャルスキルプログラムを年5回開催、QU検査で学級集団の分析を行い、教育講演会も実施した。いじめや不登校の早期解消に向けて取り組んだ結果、不登校数の減少につながった。	
スクールガードリーダー事業	3	児童生徒が安全、安心して登下校できるように、通学路や学校の巡回やパトロールを実施した。県の研修会に参加し、打ち合わせ会議を持ち、研鑽を積むことができた。また、白根百田小ではSGLの呼びかけで学校がPTAや地域に働き掛け、新規に見守り隊を組織することができた。	
教育推進管理事務	3	指導主事等が研修に参加し、その成果を市内22校に還流してきた。また、教育雑誌からの情報を学校訪問、研究会等で情報提供している。	

事務事業名	評点	評価の視点	所属
4分の3成人式事業	3	市内7校の中学3年生を対象に、成人となる20歳の4分の3にあたる中学3年生が、自分を振り返ると共に将来に向け希望を持ち、自己実現を図る意欲を育てる機会として各校で取り組んできた。当初の目的は達成できたが、学校行事の過密化、学校の多忙化のためH27年度を持って終了した。	南アルプス教育推進課
南アルプス市学校応援団育成事業	3	各中学校区のコーディネーターを中心に、地域ボランティアを募り、見守り隊を含め500人以上の登録を頂いた。特に、小学校において読み聞かせや農業体験をはじめ、体験活動の講師など、学校要望に対応する活動を展開している。教科学習における学習支援的要望も増えており、対応していく必要がある。	
南アルプス市姉妹都市国際交流プログラム推進事業	3	小学生の柔軟な時期に、英語に慣れ親しむための、体験活動中心のプログラムである。伊奈ヶ湖湖畔を利用して日帰りのプログラムを2日間行っている。参加者117人、前年比20人程増加している。	
芦安教育推進事業	3	芦安地区活性化のため、特色を活かす点で英会話科の充実や自然体験活動の充実等、小中学校が連携し教育活動をPRすることに主眼を置き取り組んでいる。説明会に先立ちチラシの作成や、英会話科に関わる消耗品の購入を行っている。	
小中学校における小笠原流礼法推進事業	3	小笠原流礼法宗家本部と関わりながら、礼法指導を行う師範を2人配置し、学校を分担しながら、一貫した指導課程により小中9年間を通して実施している。実技講習や卒業証書授与伝達講習会等、教職員の研修も実施し、心の教育の充実を図ってきた。ふるさと教育の主軸の活動である。	
外国語指導講師配置管理事業	4	9人のALTを配置し、小中学校において英語におけるコミュニケーション指導を行った。通常の授業のほか、教職員の英語力・指導力アップのための研修や、小学生対象のイングリッシュキャンプや英語教育強化地域拠点事業への協力も行った。	
幼児期の運動促進に関する普及啓発事業	3	幼児の発達段階に応じて体を動かす遊びを提供し、保育士対象の研修会、保護者・地域住民への啓発活動を行った。運動遊びをわかりやすく紹介する「プレイカード」を昨年度作成したものに、追加作成し活用している。	

(5) 基本政策 : 4. 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22. 青少年の健全育成 [10事業]

事務事業名	評点	評価の視点	所属
青少年育成カウンセラー設置事業	3	カウンセラーが事務局となり、各地区単位で青少年健全育成のため活動を行っている。相談業務の実績はH27年度1件であった。	生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	所属
青少年育成推進会議運営事業	3	市から委嘱された青少年育成推進員 112 人が青少年のための取り組みに参加している。また市民会議の専門委員会にも所属し、青少年の健全育成運動を推進している。夏と冬に啓発チラシを市内全域に新聞折込みで配布した。	生涯学習課
ジュニアリーダー養成事業	4	中学 1、2 年生を対象に地域で子どものリーダーとして活躍できる子どもたちを育成するため、月 1 回研修会を開催している。夏休みには、新たなジュニアリーダー候補の小学 6 年生も加え、60 人（前年比 15%増）が宿泊研修会に参加した。	
成人式挙行事業	4	新成人の門出を祝うと共に、大人としての自覚とリーダーの意識をもち活躍することを願い、式典を開催している。成人者 804 人中 698 人、参加率 86.8%（前年 848 人中 709 人参加。参加率 83.6%、前年比 3.2%増）	
市子どもクラブ指導者連絡協議会支援事業	3	76 支部ごとに指導者が中心となり、育成会事業が行われている。市主催事業の親睦球技大会は、24 チーム（H26 年度 29 チーム）が参加。映画上映会は、285 人（H26 年度 520 人）、前年比 54%減であった。要因としては、興行条件改正により、映画貸し出し料金が値上がりしたため、認知度の高い映画上映が出来ず、前年度を下回った。	
青少年育成南アルプス市民会議支援事業	3	次代を担う青少年の健全な育成のために、青少年の問題を市民全体で考え、諸活動を展開している市民会議への補助金。H27 年度から地区民会議ごと開催している、子ども祭り等の補助金も含まれている。H28 年度から各地区民会議を市民会議に一本化する協議を行った。	
南アルプス市警察署管内少年補導員支援事業	3	少年の非行防止活動推進及び各種防犯団体等との連携を図ることを目的とし、活動している協議会への補助金。H27 年度の補導件数 313 件（H26 年度 331 件）から 5.4%減となった。	
キッズタウン南アルプス支援事業	3	職業体験をベースとした青少年育成事業への補助金で、H27 年度は実施していない。	
県子どもクラブ安全会参画事業	3	子どもクラブ会員役員及び指導者の賠償責任保険で H27 年度 71 団体、8,144 人（H26 年度 7,505 人）が加入した。前年比 8.5%増であった。H27 年度給付件数はなかった。	
放課後子ども教室事業	4	H27 年度は 2 教室を追加し、6 教室参加延べ人数 1,058 人（H26 年度 4 教室参加延べ人数 572 人）で前年比 54%増となっている。	